

Igroup

communication

Special **09**
2023年12月22日発行

一人ひとりの一隅を
照らし続ける。



【特集】

実践事例について

BOOK CAFE PERCH
プレオープンを迎えました

NPO法人 アイグループ

〒816-0848 福岡県春日市白水池2丁目14
TEL:092-710-0013

www.npo-aig.jp

■ 実践事例: 就労について

子どもたちひとりひとりのニーズ・状況に合わせて、 就労支援を行っています。

開設当初、子どもたちの就労先を確保するため、先にホーム長がアルバイト先で就労を行い、働きたいという児童がいた際に面接につなぎ、就労先に一緒に出勤する形で就労支援を行っていたことがあります。メリットは、自立援助ホームのことを就労先の方にご理解いただけること、それから採用や離職になったとしても本人が感じる負担を減らして、就労という経験をしてもらう一歩となることです。それを就労体験として捉えることで、恐れずに前向きに仕事に行くこともできて導入時には有効でした。このような提携先となる就労先以外に応募する時も、児童によっては応募の段階から面接先に連絡をし、面接にも同席することも行っていました。ハローワークにも連携を依頼して、所長にも承諾をいただき窓口担当の方を固定してもらい、子どもたちが自身の境遇を何度も伝えずに済むような工夫をしています。

現在では、法人内の他ホームでの就労体験や、事務的な手伝いも就労体験として取り入れています。農家の方から畑の一部をお借りしての農業体験も、就労支援のうちのひとつです。就労先については、中小企業家同友会の関係企業でも就労体験を受け入れていただいたり、就労に適應していけるのかを試みするための訪問を受け入れてくださったりする協力先もあります。また当法人では、就労体験の場を広げ、ブックカフェの運営を始めました。そちらでも就労体験ができる体制を整えています。

子どもたちひとりひとりのニーズ・状況に合わせて、就労支援を行っています。

■ 実践事例: 就学について

ホーム入居中も、学びの道を進めるよう 様々な支援をしています。

高校への通学は、全日・定時・通信のいずれも子どもたちが自己負担をしなくて済むよう、法人が費用を立て替える支援を行っています。専門学校や大学の学費も一部費用を支援しています。

就学前のサポートとしては、高校の先生方にホームにお越しいただいて児童へ説明してもらうこともあります。入居前から高校に通っている方に対しても、引き続き通えるようにサポートしています。通信制高校のスクーリングに飛行機や新幹線が必要な場合にも自己負担なく参加できるようにしていますし、宿泊が伴う際も必要最低限にはなりますが、子どもたちが学びを進められるよう支援しています。自立援助ホームに入居していても、家庭から通うほかの学生の方と同様の教育環境を提供できるよう努めています。学習するのに必要な机やPC・スマホ等もホームで準備をしています。退去後は利用していた児童がそのまま持ち出せるように工夫をしています。

高校の休学や退学についても、本人の選択を優先して決定します。支援者である大人のアドバイスによって本人の意見が流されないように意識して対応しています。

就学先が遠方の場合には、学校近くに賃貸を契約して通学時にそこから通えるように支援することもあります。ホームに在籍中に何校も転校や編入を繰り返すこともありますが、ホームで特に条件などは設けておらず、その都度本人の選択をサポートしています。



■ 実践事例:障がいについて

子どもたちひとりひとりができることを考えて、 前向きに支援をすることを大切にしています。

障がい者グループホームから当法人に入居するケースや、児童心理療養施設から入居するケース、また精神科病院から入居するケース等、ホームへ入居する間口が多様化しています。

障がいについては、当法人の代表者も同じような経験があり、入居者との向き合い方について独自の支援スタイルで行っています。障がい支援事業につなぐこともありますが、本人が受容するプロセスを大切にしており、時間をかけて関わりを持つようにしています。苦手なことやできないことを指摘し改善を目指すだけでは、一面的なサポートに過ぎずかえって悪化するケースもあります。想像を広げ、可能なサポートについていくつものパターンを想定し、視野を広く持って関わるよう日常から気を配っています。苦手分野を意識しすぎた限られた選択肢ばかりを提案するよりも、可能性を広げる経験をしてほしいという視点を大切にしています。

障がいを個性として受け入れて取り組んでいますが、良い所を伸ばすためには、大人の視点から意識を変える必要があります。身近にいる大人(職員)が他者を批判・非難・愚痴をこぼすような姿勢では、子どもたちの意識は変わりません。職員同士、自分たちの視点が偏っていないか自問し実践しながら、良い思考の循環で、前向きな雰囲気を作る。その努力が入居者へと伝われば、子どもたち自身の障がいの捉え方、向き合い方も変わっていくだろうと考えています。

子どもたちひとりひとりができることを考えて、前向きに支援をすることを大切にしています。



■ 実践事例:機関連携について

ホームでの取り組み事例を知っていただくことで、各機関と連携を図ることを大切にしています。

自立援助ホーム開設当初から児童相談所の職員の方へ開設の案内等をお持ちして周知を行っていましたが、そもそも自立援助ホームではどのようなケースで利用できるのか?どんな支援を行っているのか?あまり広く知られていないことに気づきました。開設当初から週間ごとのホームでの取り組みのお知らせに写真を添えて活動報告をしていました。その後、ホームでの見学対応はもちろんです、児童相談所に訪問して一時保護所にいる子へ自立援助ホームのことを説明したり、児童相談所内の児童福祉司の方を対象として説明のお時間をいただいたりと、活動内容をお伝えしてきました。児相研の全国大会でも自立援助ホームの取り組みをお伝えする講演会の機会をいただき取り組み事例を紹介しました。

現在では、児童相談所との関わりが無くこれから一時保護を検討しているケースの受け皿としても、相談を受けるところまで関係を築くことができました。日常的な連携としては、受け入れ前の打ち合わせから見学対応、週間児童報告を1カ月単位で担当者の方へ報告、援助方針会議も適宜ご案内を行いながら入居者と共に話し合いを重ねています。児童相談所や関係機関の担当の方も入居前にご不安に感じられていたケースでも、数か月後に落ち着いている姿をみて驚かれることもあります。関連機関が難しいと判断されるケースでも、当ホームで何かできるサポートはないのか探し続けます。ありがたいことに、入居者の支援を通して連携機関先も増えています。現在、法人代表は、福岡県の男女共同参画推進課の困難を抱える女性への支援のあり方委員としても活動を行っています。

■ 実践事例:食事について

心身共に健康な状態をつくることを伝えていきます。

1日3食を提供していますが、当法人では施設利用料をいただいません。食事は基本的には職員が作りますが、冷蔵庫内にあるものを使って自炊することもできます。退去予定の6カ月前くらいからは、予算を預けて買い物から調理までを自分でやり、自立生活の準備を進めています。

誕生日会には特に力を入れて、大切にしています。その子がどのように誕生日会を迎えたいか希望を聞き、それに合わせてホーム内で誕生日会をしたり、外食に出かけたり、人数によっては会場を借りてパーティーを行います。生きていることにつらさを感じる子もいる中で、生まれてきて良かったと思える日にしたい、あなたを大切に思っているよという気持ちを伝えたいという思いでパーティーを企画します。

最近では、入居者・退去者・児童相談所・アフターケア事業所・その他関連機関をお招きし、20~60人程度の会場でテーブルマナーを学ぶ食事会も行っています。

食事の提供に使用する食材も農家の方にご協力をいただきながら、畑を借りて玉ねぎやじゃがいもを育て収穫したものを調理していただくという取り組みも行っています。心身共に健康な状態をつくるのが重要であることを伝え、ホームは子どもたちが退去後に生活に困ったときにも立ち寄りやすい環境でいられるよう意識しています。週に1回のフードバンク食材の提供についても、入居者だけでなく利用者(退去者含む)にもお渡ししています。

■ 実践事例:職員体制(体制強化、職員確保など)

職員体制については、 予算がなくても基準の2倍は配置することを意識しています。

職員体制については、断続的労働時間の申請等の特別なことはあえて行わずに、労働基準に従って常勤職員も週に1回までの宿直としています。人員配置は2.5人ですが、当法人では3~9人配置しています。平日昼間は2~4人職員がいる時間もあります。体制強化加算を使える地域もありますが、予算がなくても基準の2倍は配置することを意識しています。夜間早朝は宿直者が対応しますが、宿直者不在の時は労働基準の対象外にある法人代表が対応を担っています。判断を求められる立場の為、負担が偏り常に連絡対応に追われています。この点を改善する為に、各種委員会を設置して複数のホームで連携できるように取り組んでいます。

管理者以外にも本社の職員がいて、総務人事、SV、財務経理、広報などの専門職を配置しています。職員の確保についても人員が足りている時にも求人をしています。職員からの紹介もありますし、他ホームの利用者が就労体験で手伝ってくれることもあります。学生向けに求人を出し学生アルバイトも採用しています。職員を育成する仕組みとしては、年に数回の合同研修と入職3カ月以内、6カ月以内の社員研修も行っています。

■ 実践事例:職員育成・スーパーバイズについて

法人内での職員交換研修や、顧問弁護士による法律相談等も行っています。

職員研修の一環として毎朝の朝礼を全ホーム合同で行っています(オンライン)。日々様々な対応がある為、他ホームの様子を知ること互いの経験を共有することができます。また、毎食の食事メニューや日々様子をグループLINEで共有して、互いに日々の業務への気づきを得られるようなしくみを作っています。

半期ごとに行政の方を講師に招いて制度について学ぶことや、他法人のホーム長に講師としてお話いただきスタッフの視野を広げる機会を設けています。職員が希望すれば県外のホームへ見学に伺い、意見交換なども行いやすい仕組みを整えています。法人内での職員交換研修や、顧問弁護士による法律相談等も行っています。

SVとして本社の管理職が各ホームへ訪問し職員面談も行っています。各職員の業務の役割と、役職による役割を分業していることで、働き方への目標設定ができ振り返りができるように工夫をしています。組織内での職員育成・スーパーバイズについては、委員会で検討し、アンケート結果をフィードバックし、計画・実践を積み重ねています。最近では入居者へGoogleフォームでのアンケート調査を行い、職員育成に活用しています。

■ 実践事例:住宅・居所について

当法人では、自立援助ホームの利用料金を負担する必要はありません。

当法人では、自立援助ホームの利用料金を負担する必要はありません。ステップハウスも制度内であれば費用負担なく利用できます。制度外での利用については、原則30,000円までの賃料補助を行い差額家賃のみ支払っていただきます。29歳までの方を支援対象としています。ステップハウスの初期費用等も法人が負担している為、自己資金がなくても利用は可能です。ただし18歳以上の就労をしている方に限っています。

現在複数のステップハウスがありますが、ペットが飼育できる環境で暮らせる物件もあります。ホーム入居中でも退去後でも条件を満たしている方は利用できますが、法人が支援しているため法人代表者との連絡相談ができなければいけません。

そのためにも入居者はホームとの約束ごとや自立に向けての生活を意識しますし、職員へ相談することを徐々に身に付けていきます。

仕組みを構築するまでは様々な苦情や心無い声を聞くこともありましたが、いまではブックカフェと同じマンションにもステップハウスを増室しており、相談から緊急対応も行える環境を整えています。同マンションには社宅、管理職の事務所もあるため、大人の目が届きやすい環境です。今後も居所の支援にも力を入れていく考えです。例外ではありますが、ステップハウスの利用者には通院している方や大学へ通学している方もいます。それぞれ家賃補助以外にもフードバンクや食材の提供も行い支援しています。



BOOK CAFE PERCH、プレオープンしました

10月31日、BOOK CAFE PERCHは プレオープンを迎えました。

10月31日、BOOK CAFE PERCHはプレオープンを迎えました。プレオープン当日にハロウィンパーティーを企画しましたが、この日はたくさんの方に足を運んでいただきました。一時は座席が足りなくなるほどの盛況で、子どもたちの楽しそうな様子に、元気をもらいました。近くのホームの子どもたち、そして北九州や熊本からも、児童とスタッフたちが福岡県春日市まで駆けつけてくれました。また、他ホームの方、法人でお世話になっている関係者の方もお越しください、お祝いしていただきました。本当にありがとうございました。ホームを巣立ったOGも遊びに来てくれ、胸がいっぱいでした。

「PERCH(パーチ)」には、「とまり木」という意味があります。入居している子どもたちや巣立っていった子どもたちがふりと立ち寄り、ほっと一息つけるような場所であれたらな、という気持ちを込めました。また、働くことへ難しさを感じていたり、一歩踏み出せなかったり子どもたちの「働く練習の場」になれたらと考えています。カフェで就労体験をすることで、少しずつ自立に向けての心と体の準備をするサポートができればと思います。ホーム以外に子どもたちの居場所をつくる・就労支援の場をつくるという、あたらしい取り組みへのチャレンジには、不安もたくさんありました。まさに手探りの状態からプロジェクトチームで話し合いを重ね、歩を進めてきましたが、ようやくこうして形になってきたのは、みなさんのご協力があったことだと心から感謝の気持ちでいっぱいです。今のところドリンクと焼き菓子のみの提供ですが、今後は焼き菓子を袋詰めして販売したり、ランチメニューを提供したりと、カフェとしての幅を広げていく予定です。



大好評のPERCH特製クッキー!!

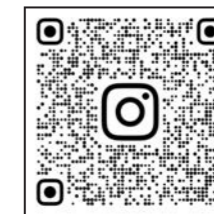
PERCHには、菓子作り担当のスタッフがいます。彼女の作る菓子は本当においしくて、プレオープンイベントでも大好評。特に、食べ応え抜群のチョコチャンククッキーは、レシピを聞いてくる方が続出! 販売を心待ちにしてくださる声も届いています。実は、彼女はアイグループが最初に立ち上げた「自立援助ホームえん」の初期から働いてくれている頼もしいスタッフ。手作りの菓子やパン、ケーキは当時から子どもたちにも(スタッフにも)好評でした。そこで、カフェ立ち上げの時にちょうど育休復帰だった彼女に菓子

作りを担当してもらうようお願いしました。「ホームの子どもたちが喜んでくれるから、ただケーキを焼いたりパンを焼いたりしていただけないんですけど、それがこんな形になるなんて驚きです」と話す彼女ですが、大人気のチョコチャンククッキーの秘密を探ると「良い色を出すために三温糖を使っています」「歯ごたえを出したいから強力粉を混ぜています」と、やはりこだわりがたくさん。これから、焼き菓子を袋詰めして販売できるように、いまは絶賛試作中。たくさんの方に届けられるようがんばります。



SNS、発信していきます!

「今日はあいてますか〜?」そういってお店に遊びに来てくれた子。子どもたちがPERCHに来てくれると、いきなり空気が明るくなります。本を手にとってくれたり、スマホを見ながら過ごしたり。思い思いに過ごしてくれる様子を見るとやっぱりうれしいです。PERCHのカフェとしての営業日は現在のところ平日のうち3日で、不定期です。時間は10時から16時。これからまた変わっていくかもしれませんが、それも含めて、営業日はSNSでお知らせします。これからの新しい試みの様子も、インスタグラムや公式LINEでどんどん発信していきますので、ぜひチェックしてくださいね。



公式 Instagram



公式 LINE

子どもたちの自立を
家族のように支援する、
プロフェッショナルたち。



えん

自立援助ホームえん

日常では経験できないことを一緒に取り組めたことは
スタッフにとっても素晴らしい経験になりました。

えんです。現在6名の児童が生活しています。

自立援助ホームでは主に子どもたちの自立に向けてのサポートをしていますが、近年、就労だけでなく資格の重要性という観点から就学へのサポートもおこなわれることが増えています。就学している子どもたちもアルバイトをしながら将来への自立に向けて貯蓄をしますが、就労すること自体ハードルが高い子どもたちが多くなっているのが現状です。少しでもそのハードルを下げる取り組みがないかをスタッフ全員で考えました。それは、2023年えんで最も力を入れた「一緒に働く場」を作ることです。近隣で行われた夏祭りや秋祭りに子どもたちと一緒に出店をしました。出店前の構想や必要な物品、経費から子どもたちも一緒に考えていく。当日の準備や販売をスタッフと一緒にこなう。スタッフも一緒に取り組むことで、一連の流れを通して実際の子どもたちの就労への取り組み方を目の当たりにし、良いところや改善点の



発見をすることができました。良いところ、頑張っているところを褒めて伸ばし、不足している部分や課題については、スタッフが把握できたことにより日々の関わりの中で改善していけるような支援をすることにつながりました。小さなステップにはなりますが、就労で苦戦している子どもたちの困り感を把握することはとても大きな収穫になりました。何より子どもたちと日常では経験できないことを一緒に取り組めたことはスタッフにとっても素晴らしい経験になりました。今後も、子どもたちにとって何か必要かを考えていき行動に移していきたいです。ともに楽しみながら、しっかりと支援していければと思います。

テンポラリー

テンポラリー

忙しい日々の中でも
1年を通して大切にしていることがあります。

1年はあっという間で2023年も終わりを迎えようとしています。

テンポラリーも開設から9月で3年目に突入しました。現在は6名の子どもたちが生活しています。

アルバイトを頑張っている子、高校に通って卒業資格取得に向けて頑張っている子。まさにいまアルバイトを探している子やこれから高校へ入学をする子もいます。様々な子どもたちがテンポラリーで日々頑張っています。

そんな忙しい日々の中でも1年を通して大切にしていることがあります。仕事や勉強だけではなく日常の経験や体験から学びや社会との関わりを知って欲しいという考えのもと、さまざまなイベントを計画しています。子どもたちの誕生日会やクリスマスも含め、夏の思い出づくりなど、季節を感じられるイベントも取り入れています。

今年の夏は「浴衣を着て花火大会へ行きたい」と子どもたちの願いを叶えようとイベントを企画しました。浴衣を選んだり屋台で各々の好きな物を買って食べたりと、夏にしかできない体験を子どもたちと共に経験することができました。



このイベントで、いつもと違う状況や環境の中で新たな子どもたちの一面を知ることができましたし、子どもたちに必要と思われる新たな支援を発見することもできました。子どもたちと並んで地べたに座って見上げた花火は職員にとっても一生の思い出です。子どもたちの心の中にも想いで1ページとして刻むことができていたら嬉しいです。これからも共に思い出のページを増やしていけるようなそんな支援をしていければと思います。

LUCK

自立援助ホームLUCK

『新LUCK始動』

10月に引越し、心機一転新LUCKとしてスタートしました。交通の便も良くなり、子どもたちは通学や就労に日々邁進しています。今は、児童6名が生活しており職員7名と一緒に日々を過ごしています。高校へ通っている児童、就労している児童、さまざまな児童たちが生活しています。ホームでは、子どもの気持ちを一番に考え優先し大切にしながら、子どもたちが安心して帰ることが出来る、そんな居場所になればと日々思っています。

毎年イベントを大切に子どもたちと楽しく過ごし、喜びも共に感じています。今年の夏はハウステンボスへ行き、子どもたちもすごく喜んでいました。お昼のバイキングでは、子どもたちがそれぞれの好きな物を選んで食べ、夜は花火や夜景まで観る事ができ、とてもいい思い出となっているようでした。今年は、地域の夏祭りにも参加いたしました。秋にはハロウィンパーティーをし、ハロウィンにピッタリなかぼちゃの夕食作りをしました。

また、博多食文化イベントにもお招きいただき、鮪の解体ショーなど普段見



る事のないものも目にしたり、たくさんの方たちと触れ合ったりと、食の大切さに加え、社会とのつながりを感じる機会となりました。冬にはクリスマス会、お正月のイベントなども控えています。中でも子どもたちの誕生日のお祝いをととても大切にしており、職員も共に時間を過ごすようにしています。

ホームでの共同生活をして行く中で、ルールを守りながら、子どもたちの『笑顔』、子どもたちの『成長』を大切にしながら一歩ずつ歩いていけたらと思っています。



テンポラリ小倉北

テンポラリ小倉北

毎日一歩でも前に進むように…。

安心して暮らせる、他愛のない事で笑い合える、アットホームな雰囲気の中で子どもたちと一緒に過ごしたい、そんなテンポラリ小倉北です。

今年で2年目のテンポラリ小倉北です。現在児童6名が生活しており、職員6名と一緒に日々を過ごしています。高校に行きながらアルバイトを頑張っている子、高校入学を目指している子、自立に向けてアルバイトを頑張っている子、それぞれ自分の目標に向けて前を向いて少しずつですが進もうと努力しています。アイグループでは季節の移り変わりを感じ、イベントを楽しむ事を児童達に体験させるという事に積極的に考えもあり、小倉北でも同じ思いでイベントなどを企画しています。児童の誕生日会では「初めて大きなケーキでお祝いしてもらった」と喜び、こぼれんばかりの笑顔を見せてくれました。ハロウィンの時期と重なった誕生日会では、各々好きなコスプレをして参加しお祝いしました。夏にはナイト動物園の縁日に参加し、キッチンカーで売りに来ていた物を楽しく美味しく頂きました。乗り物にも乗り心に残る夏の思い出になりました。児童と職員も打ち解け共通の話題ができ、心の距離が縮まったように感じました。児童達は「次はこうしたい」など積極的に意見を言うようになるようになりました。



また普段の生活の中でも子どもたちとふれあい、コミュニケーションを取っています。ホームに来るまでは、声を掛けても返事を返す相手がいなかったことから何も言わずに外出する事が当たり前になっていた児童が、最近では大きな声で「行ってきます」「ただいま」と言うようになりました。当たり前前を大切に接していた成果だと思っています。日々の小さな積み重ねによって、自然に児童たちに伝わって感じてもらえたらと思いつつ努めています。何気ない日常に感謝し、自分の事を大切に考えて欲しいと願い、これからも職員一同で見守りながら支援させて頂きたいです。



Permit

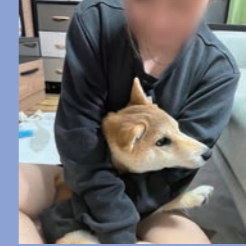
Permit

日々を前向きに過ごしながら生活していこうというメッセージを伝えています。

Permitは今年開設した新しいホームで、現在5名の児童が在籍しています。どの職員も児童たちの成長に「職員も共に」の思いで支援をしております。

ホームの児童は将来の夢のために頑張っている子、独り立ちのために就労を頑張っている子様々ですが、そんな日常のなかにも楽しみを作ろうと夏には海へ行きBBQをしました。誕生会では「こんなに祝ってもらったことない」と涙ぐみもありました。また、季節も楽しもうと七夕や十五夜には普段と違う豪華な食事を出すなど、児童も職員も楽しめる企画を行うことで、日々を前向きに過ごしながら生活していこうというメッセージを伝えています。

Permitでは柴犬のこてつを飼うことになりました。「生き物を飼うのは初めて」と嬉しそうにかまう児童、なかなか集団の場に出てこれなかった児童が



楽しそうにリビングで過ごす姿、動物は慣れているよと言ってくれた子もいました。こてつとの生活で、子どもたちの新たな一面や成長を見られるきっかけになりました。寝や散歩など最初はうまくいかなくても、「こんなやり方あるよ」「調べたこの方法でやってみよう」と積極的に飼育に参加するような姿も見られました。

今後も試行錯誤を続けていながら、児童のよりよい生活、将来の自立に向けて支援を行ってまいります。



inn

自立援助ホームinn

児童と職員共に少しずつ成長し笑顔で過ごせるようにしていきたいと思ひます。

大村湾沿いに位置し自然に囲まれた環境で現在4名の児童が生活しています。

innでは、学校に行きながらバイトをして自立に向け頑張っている子もいます。学校までの距離があり、通学も大変ですが朝早く自分で起きている事は、私達も頭が下がる思いです。

2023年7月にはイベントで佐世保の海きららに行き、たくさんの生き物を見たり佐世保バーガーを食べたりしました。イベント計画時から子どもたちと話し合い、場所を調べることや、行き方、料金はいくら必要になるのかなどを調べることも、子どもたちの学びとなっていました。8月には、福岡、熊本への旅行へ行っています。ジェットコースターに乗ったことがない児童もいて乗るのが怖いと言っていたのですが、「乗ってみると楽しくて何回も乗ってしまった」と話してくれました。「一歩踏み出す勇気が大事だと感じた」「将来、都会に住んでみたい」という声も聞かれ、新たな考えを持つきっかけにもなったようです。児童にも良い経験になり、楽しい思い出となりました。



現在は、児童それぞれが少しずつ自立に向けinnを出た後について考えている最中です。児童一人一人が様々な課題を抱えており、児童と職員と一緒に悩みながら解決に向け必死にもがいています。児童と職員共に少しずつ成長し笑顔で過ごせるようにしていきたいと思ひます。

ラブ

自立援助ホームラブ

ひとりひとりの気持ちに寄り添う
対話(会話)を大切にしています。

今年もあっという間に1年が過ぎようとしています。
今年5月にラブに2年間居た児童を送り出しました。その子が久しぶりに訪ねてくれた時「私、警察官になりたいという夢が出来ました。来年、警察学校に入学します。」と話してくれて、ものすごく嬉しかったことを思い出します。夏には、入居児童と職員で夏祭りの夜市に行きました。ホームの外で子どもたちと過ごすことがはじめてでしたので、緊張しましたが、楽しんで子どもたちの姿がかわいくもあり、またその様子を写真におさめることもでき、良い思い出がまた1つ増えました。ホーム内とはまた違い普段話さないようなことを話す機会にもなり、とても意義で貴重な時間を過ごすことができました。ラブでは様々な児童と一緒に暮らす中で、ひとりひとりの気持ちに寄り添う対話(会話)を大切にしています。日頃おこなっている交流とは別に、1ヶ月に1回、意見交換会を必ず実施し、困っていること・悩んでいること、ま



た他愛のない話を、一緒に食事をしながらリラックスして話せる場を設けています。毎回、ともに入居する他児童への思いや、両親への気持ちの変化など、様々なことを話してくれます。また1つ1つの入居児童の思いを受け止め、問題の解決や話題を共有するために、スタッフ間でのミーティングの場も大事にしています。これからも入居児童の最善の支援につながるよう、関係機関も含めご指導いただきながら職員一同協力し、毎日を楽しみながら過ごしていきたいと思ひます!

庵

自立援助ホーム庵

イベントやお祭りにも
参加する機会が増えました。

急に朝夕寒くなってきましたが、現在庵では元気に5人の児童が生活しています。
児童の中のひとは、通信学校に通っているながらアルバイトをしています。朝早くから夕方まで週6日働く頑張り屋さんです。職場からの信頼も厚くこのまま就職する勢いです。庵に入ってきた当初は誰かのそばにいないと落ち着かない様子で、仕事も大丈夫かなと心配もしました。今までは誰かがなんとかしてくれていたかもしれませんが、ここでの生活は、自分でやるが多くなります。いつも職員から声を掛けられギリギリに行動することが多く、職員もいつもドキドキでした。でも11月に学校のスクーリングがあり、自分でしないといけないことを、自ら職員に尋ねてきました。そして自分で関係先へ問い合わせることが出来たのです。不安なことも話してくれるようになりました。そして今回は期日前にきちんとやるべきことを終了できました。少しずつではありますが、成長が感じられ職員も嬉しい気持ちになります。またイベントやお祭りにも参加する機会が増えました。先日は、みんなで福岡県春日市のブックカフェに。ハロウィンイベントだったため可愛い



帽子を被り参加。みんなでバスや電車を乗継ぎ、目的地へ。初めて改札口を通る児童もいて、みんなで和気あいあいと楽しい時間を過ごせました。帰りに福岡市に行き、ラーメンを食べる幸せそうな顔も見られました。次回のクリスマスパーティーを楽しみにしています。その時は、児童が考えたプランで出かけたいと考えています。日々、少しずつでも成長している児童を私たちが周りでサポートし、一緒に1日1日を大切に過ごしていきたいです。

テンポラリくまもと

テンポラリくまもと

児童の特性を理解することで良い関係を
築いていけるということを実感しました。

テンポラリくまもと現在3名の女子児童が入居しています。
ある児童は、得意なことと苦手なことの偏りが大きく、日によって差が大きいこともあり、どのように支援をしていけば困り感に寄り添えるのか、職員間でも話し合い、悩みました。その都度声掛けをするだけではうまくサポートができない部分もありました。本人と日々コミュニケーションを図りながら信頼関係を深め、ゆっくと少しずつ出来るようになるのを待ち、出来ているところ、良いところ、頑張っているところを褒め、認めていこうと、職員が彼女に対する支援や考え方を考えることにしました。すると、支援する側も本人にも笑顔が多くみられるようになり、今では恋愛の事や進学の事など悩みがあれば自ら職員へすぐに相談してくれるようになりました。現在は、大学受験に向けバイトと両立しながら勉強を頑張っています。



入居する前は、周囲とコミュニケーションが図れず言い合いになり、うまくいかないこともあったそうです。今回、支援者の考え方をえ特性を理解することで良い関係を築いていけるということを、彼女から学び実感しました。職員、児童共に成長し一緒に困難を乗り越えて行こうと思ひます。

テンポラリくまもと2号室

テンポラリくまもと2号室

自分の力で起き上がるのを待ち、
レジリエンス力を高められるよう見守りながら
支援を行いました。

テンポラリくまもと2号室です。入居当初から他者とのコミュニケーションが苦手で職員が声をかけても何も応答がない、という児童がいました。

職員との関係性に少しずつ変化が見られるようになったのは入居して半年ぐらからでした。バイト先での困りごとなどを自ら職員に相談することが増えてきました。バイト先での人間関係が上手くいかずバイトを辞める事になり、情緒が不安定で部屋に引きこもる日が続いたこともありました。本人と面談を行った際に「基本的にほっといて欲しい」という要望がありました。日常的な声掛けは行っていました、深く介入せず、自分の力で起き上がるのを待ち、レジリエンス力を高められるよう見守りながら支援を行いました。



ある日、これまでとは違ういい表情で「面接を受けたいところがある」と相談にきました。その後バイト先が決まり現在、休むことなく就労を頑張っています。バイト先からの急なシフト変更にも柔軟にえ対応できる姿に本人の成長を感じています。